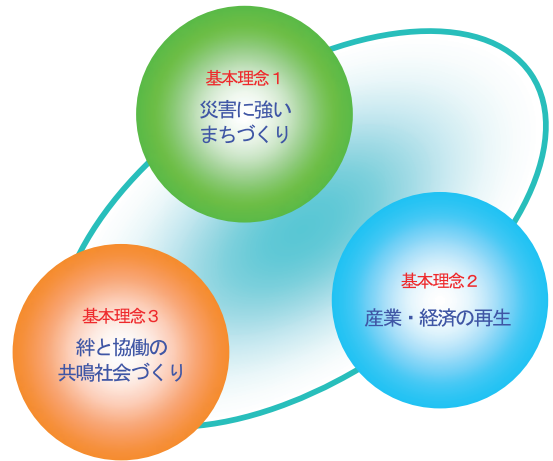


25 石巻の未来像

石巻の復興

石巻市の復興計画では、「災害に強いまちづくり」、「産業・経済の再生」、「絆と協働の共鳴社会づくり」を目指していました。計画で定められた復興の期間は10年間で、令和2年までに復興させるのが目標でした。ただ、復興は行政だけで進めるものではありません。復興計画にも「復興の主体は、市民一人ひとり」と書かれています。石巻市民の一人として石巻の復旧・復興について考えましょう。



【図 石巻市復興計画の基本理念】

1 まだ“復旧”していないものを挙げてみよう。

2 今後の石巻の発展に必要なものを考えよう。

① 「災害に強いまちづくり」のために必要なものは何だろう。

② 「産業・経済の再生」のために必要なものは何だろう。

③ 「絆と協働の共鳴社会づくり」のために必要なものは何だろう。

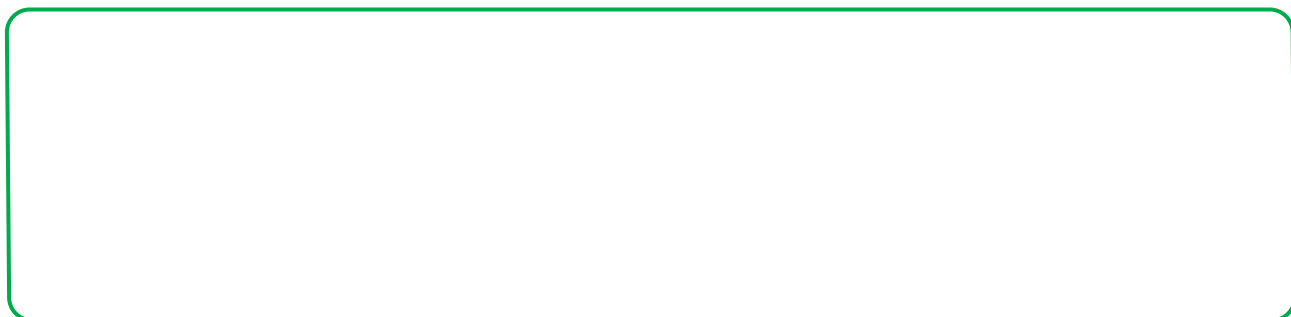
石巻の未来像

石巻の復興計画は令和2年度までの復興を目指していました。電気やガス、水道などのライフラインや交通機関や物流などは復旧し、公営の災害復興住宅の建設も進みましたが、経済的な理由などから家の再建が困難な方もいます。

また、東日本大震災からの復興はできたとしても、次の震災が明日起こるかもしれません。東日本大震災クラスの災害がいつ起きてもおかしくないため、未曾有の災害への備えも急ピッチで進められています。

これからの石巻について語り合うことが未来への一歩につながります。

石巻の未来について友人と語り合い、これからのために今やらなければならないこと、いま私たちにできることを話し合ひましょう。



▲防災拠点として建設された「防災センター」



▲多くの市民が参加する「石巻市総合防災訓練」



▲いのちについて考える「震災遺構大川小学校」



▲震災の記憶と教訓を伝える「震災遺構門脇小学校」